政府全職員を“AIエンジニア”へ

ガバメントAI「源内」が切り拓く、中央省庁の業務改革と未来

2025年12月、国家規模のAI活用が本格始動する

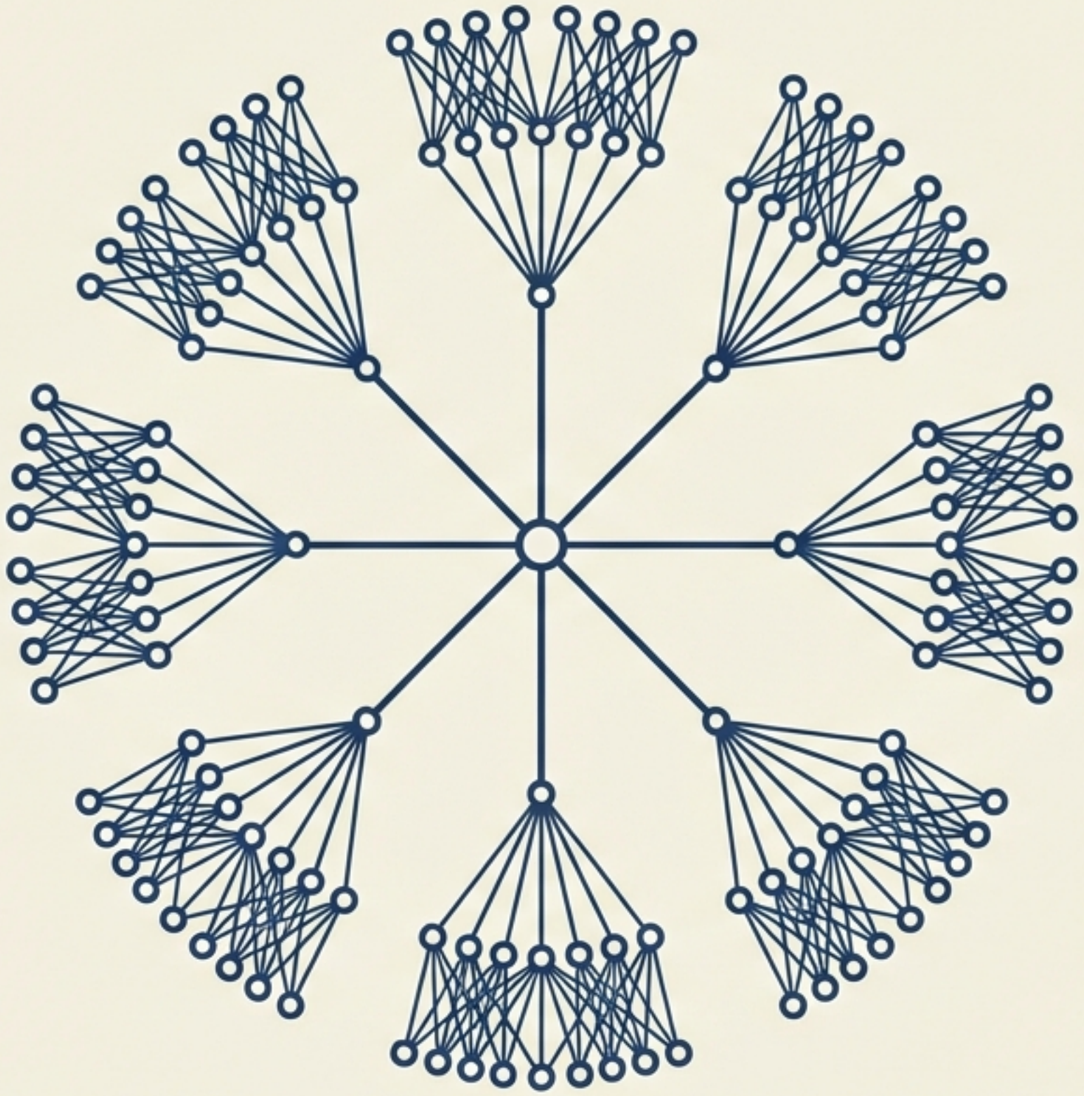
- 高市総理から示された政府におけるAIの徹底活用方針。
- 目標は「政府職員を全員AIエンジニアに」すること。
- 2026年5月からは、政府職員10万人以上が活用できる環境へ。

深刻化する人手不足と、肥大化する行政課題のジレンマ

人口減少に伴う深刻な担い手不足

公共サービスの維持・強化、
膨大な資料の収集・分析、
許認可審査の処理速度と正確性

巨大組織「国土交通省」が抱える現場のリアル



非常に部局が多く、
行政分野も職員数も膨大。

効率化すべきポイントは
多数あるが、解決できずに
業務だけが増えていく。

デジタル庁内製開発による生成AI利用環境「源内」

デジタル庁が自ら開発を手掛けたガバメントAI。

現場の職員が自らの手でAIアプリケーションを開発し、本当の課題を解決する基盤。

行政実務に特化した20種類以上のAIアプリを標準搭載

20+
専用アプリ

法制度の調査支援

過去の国会答弁検索

カスタムアプリ開発

2025年12月　2026年1月　2026年5月

デジタル庁から国交省へ：実装に向けたキックオフ

「国交省とデジタル庁、どうやってAIアプリを作っていこうかというところを話せたらなと思っております。」

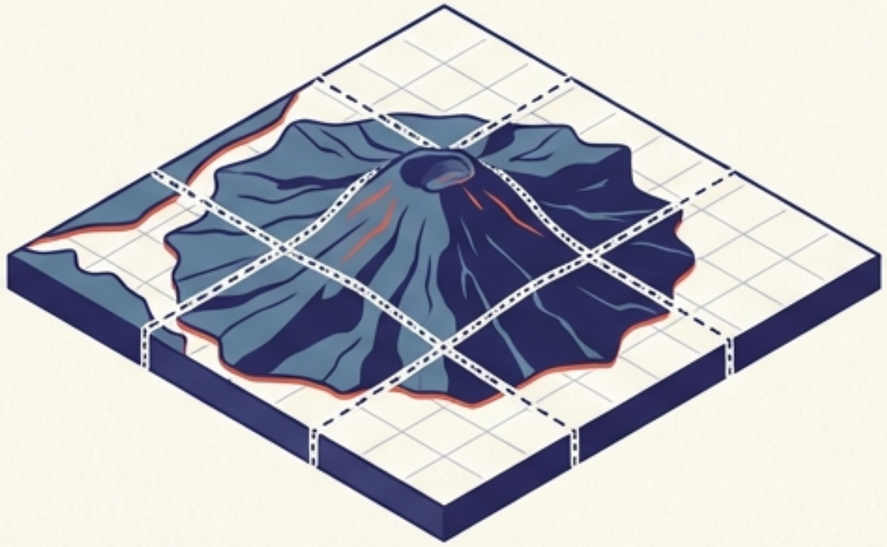
デジタル庁 AI実装総括班　大杉直也

参加者
約30名

2025年12月 — 2026年1月 — 2026年5月

プロンプトのブレを吸収し、セキュアなデータを即座に可視化

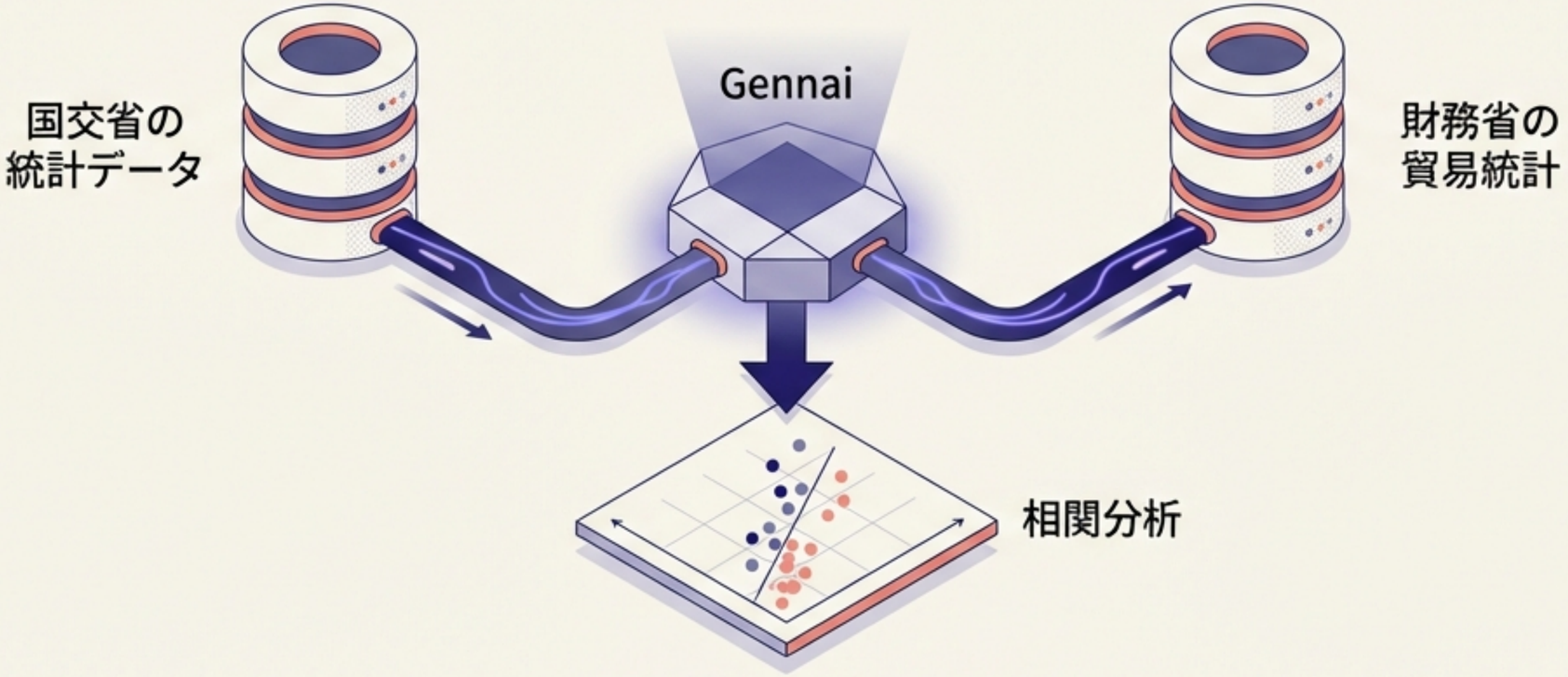
問合せの仕方を変えても



都道府県のデータから
ブレークダウン

2025年12月 — 2026年1月 — 2026年5月

展開開始：省庁間の枠を超えたデータ分析が日常になる



一部府省庁での利用が開始され、さっそく複雑な相関分析を現場で実行。

「AIがタスクを整理し、優先順位をつけてくれる」

「こんな簡単にできるんだなっていうのは初めて見ました。私もチャレンジしてみたい。」

「源内があることで自分の中でタスクを整理して、優先順位づけができるようになった。」

「可能性がすごいある。いろんな使い方ができると感じる人が増えれば、どんどん使われていく。」

与えられたツールから、自ら創り出すソリューションへ

システム実装を待つのではなく、現場のクラウド推進担当者が
自ら源内で課題解決の形を構築する。

2025年12月 — 2026年1月 — 2026年5月〜

10万人の「AIエンジニア」が、行政のイノベーションを生む

- AIが横にいるのが当たり前の組織へ。
- 創造的に業務を行い、国民に信頼できるAIの意義を示す。
- 単なる業務効率化を超え、新たな政策とイノベーションを生み出す土壌が完成する。

「源内を使い始めることは、ゴールではなくスタート地点」

デジタル庁

現場の利用者

「我々だけの力ではなく、利用者の声や知恵が必要です。
行政業務の品質を実際に上げるため、一緒に頑張っていきたい。」

中央省庁を舞台に、源内が行政の未来を切り拓く。